

## 第53回全国学校体育研究大会岐阜大会への附属学校の研究

—「体づくり運動」と「ネット型ボール運動」の指導—

The research found and developed by Gifu University affiliated elementary school, the 53rd national convention of physical education in Gifu.

—A teaching of “Stretching and Gymnastics” and “Net type ball game” —

原田憲一・藤田忠久・御宿浩輝・江川秀文・乾 貴之・大澤秀行

HARADA Kenichi, FUJITA Tadahisa, MIYADO Hiroki,  
EGAWA Hidefumi, INUI Takayuki and OOSAWA Hideyuki

### 1 はじめに

第53回全国学校体育研究大会（以下「学体研」）岐阜大会（以下「全国大会」）の開催（平成26年11月）に当たり、岐阜大学教育学部附属小学校（以下「附属小学校」）が、第2分科会場（小学校授業校）となることが平成24年度に決定した。当該年度には、附属小学校としての「研究発表会」（本発表）があることから、本校の研究実践とも整合性を図り、二本立ての研究にならないように留意することとした。また、全国大会では、岐阜県小学校体育科研究部会（以下「小体研」）の実践の成果を発表していく場となることをわきまえ、主張・提言の仕方を考慮することも確認した。

ここでは、全国大会に向けての3年間の歩みと実践の成果をまとめて報告する。

### 2 研究の背景と課題

附属小学校では、体育科の本質を「運動の見方・考え方」（図表1, 2）を深めながら、「確かな動き」を身に付けることと考えている。「確かな動き」とは、運動主体者が意図的に繰り返してできる動きであり、それを発展させることが可能な動きである。私たちは、児童の「体を動かしたい」「できるようにになりたい」という欲求を充たし、児童自らが「確かな動き」を身に付けられるようにする。また、運動全体のイメージをとらえて、中核となるポイントをつかむという「運動の見方・考え方」を視点にもち、「見通し→試技→振り返り」のサイクルを繰り返しながら、よりよい動きを追求する児童の育成を目指している。見た動きや動きの感じを比べることを追求の手がかりにし、児童一人一人が自分の課題を解決するために、自分なりの追求の仕方を身に付ける。そして、この過程で得られる成就感や達成感、充実感によって、運動のもつ楽しさやできるようになる喜びを味わうことができ、運動に親しむ資質や能力を培うことになるという立場で進めている。言い換えれば、よりよい動きを求めて「動きのコツをつかむ」過程にこそ、体育科学習の面白さがあると考えている。また、児童自らが「自分なりのコツ」をつかみ「確かな動き」を身に付けることができるようにするためには、発達の段階を踏まえ各段階に応じた指導を工夫し、系統的に指導していくことが不可欠となる。

全国大会の小学校研究主題は「仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育授業の創造」であった。附属小学校を会場とする第2分科会では、「体づくり運動」と「ボール運動～ネット型ゲーム」の領域を与えられた。そこで、「確かな動きと自分なりのコツをつかむ児童の育成」という観点から、「体づくり運動」と「ボール運動～ネット型ゲーム」の領域において「発達の段階に応じた系統的な指導の在り方」を明らかにすることが課題となった。

### 3 研究の目的

児童自らが自分なりの動きのコツをつかむことができるように学習活動を工夫し、児童一人一人に応じた指導に対応した評価を実施することで、児童は運動自体のもつ楽しさやできるようになる喜びを味わうことができるはずである。しかしながら運動経験の差や発達段階に応じて各学年の綿密な単元指導計画が必要となる。そこで本研究では、小学校の「体づくり運動」と「ボール運動～ネット型

ゲーム」の領域において、次に示す「運動の見方・考え方」(図表1, 2)に照らしながら、発達の段階を踏まえた系統的な教材を開発することを目的とした。

〈図表1〉 体づくり運動(巧みな動きづくり)における「運動の見方・考え方」

発達の段階 見方・考え方	低学年 / 中 学 年 / 高 学 年
運動の全体	全体のリズム … 一人一人がつくる自分なりのリズム ・運動の全体(動きや姿)を感覚的な擬態語(リズム言葉)でとらえたもの
部分の動き	中核となる部分の動きに関するポイント タイミング、スピード、バランス、コントロール等の身体操作
動きを支える要素	部分の動きを支える要素 (各部位の様子や動かし方)

〈図表2〉 ネット型ゲーム～ボール運動における「運動の見方・考え方」

発達の段階 見方・考え方	中 学 年 / 高 学 年
運動の全体	ゲームにおける得点までのイメージ(攻撃のリズム・バランスよい広がり) ・1本目「受ける(→上げる→レシーブ)」～2本目「つなぐ(→整える→トス)」～3本目「返す(→攻める→スパイク)」という三本返球→三段攻撃のリズム ・ポジショニング等のコート上のバランス
部分の動き	ボールの動き(ボール運び)に伴う状況判断(約束事)の観点 「何を」 → 「どこへ」 → 「いつ」 (プレーの選択) (スペースへの意識) (タイミングへの意識)
動きを支える要素	位置関係
	ネットと自分の位置/コート内の味方との位置/相手に対するコート内の位置
	ボール操作や身体操作
	自分の技能の把握/直接的な相手の技能の把握/コート内の他者の技能の把握

そのために、以下の項目で明らかにしていくことを目的とした。

- ①「体づくり運動」における棒状の用具操作を伴う運動の系統的な指導
  - ・中学校以降の武道や球技等に生かす「多様な動きをつくる(用具を操作する)運動」～「体力(巧みな動き)を高める運動」教材「ふぞくぼうを使って」の開発と指導法の究明
- ②「ボール運動～ネット型ゲーム」の系統的な指導
  - ・小学校における「ネット型」のゲーム～ボール運動の究明＝系統性を踏まえ発達の段階に応じてキャッチを取り入れた「ふぞくっ子バレー」の確立

具体的には以下の観点から授業づくりを展開していくことにした。

- (1) 運動の特性に基づく教材分析と系統性を重視した指導計画の作成
- (2) 全ての児童に運動ができる楽しさを味わわせる教材・教具の開発
- (3) 動きのコツを身に付けさせる指導と評価

#### 4 実践計画

- (1) 研究組織と役割分担

附属学校体育科教員3名及び附属学校管理職教員2名さらに大学教員1名が加わり、以下のような

役割分担で行った。

① 附属小学校体育科教員（体育科研究部員）

江川秀文教諭 … 授業実践者及び研究推進者（教科主任）。附属小学校の研究発表会に向けて体育科部としての研究をリードした。全国大会では、研究発表（プレゼン）と保健の授業を担当。

乾 貴之教諭 … 授業実践者（「体づくり運動」の実践についての責任者）。全国大会では、「体づくり運動」の授業を担当。

大澤秀行教諭 … 授業実践者（「ネット型ゲーム～ボール運動」の実践についての責任者）。全国大会では、「ネット型ボール運動」の授業を担当。

② 附属小学校管理職教員（体育科研究部OB）

藤田忠久教頭 … 研究代表及び研究構想者。研究紀要・研究報告の執筆を行った。全国大会では、附属小学校研究責任者及び研究会司会進行役を担当。

御宿浩輝主幹教諭 … 研究推進者。実践について客観的な助言を行った。全国大会では、「全体会」シンポジスト（小体研代表者）。全国大会の準備や運営を推進。

③ 岐阜大学教育学部保健体育講座教員

原田憲一教授 … 附属小学校体育科部の共同研究者。理論的な根拠を提供した。全国大会では、第2分科会場（附属小学校）の指導・助言を担当。

(2) 研究計画

11月の全国大会を最終目標とし、直前の6月の附属学校研究発表会や1年前の全国大会プレ大会等、その他の研究会を効果的に取り入れ照合確認しながら進めた。行った主だった提案授業等を一覧表にして以下（図表3）に示す。

〈図表3〉計画一覧 1～6…学年 A～G…領域（A体づくり運動，Eゲーム・ボール運動，G保健）

	校内研究	学体研	小体研	その他
平成 24 年度	6月 中間研授業 1A 江川, 4E 大澤 12月 部研授業 5E 乾 2月 全校研 4A 大澤	(準備委員会発足)	8月 夏季ゼミナール 分科会提案 6G 荒川	6月 校外研授業 4E 大澤
平成 25 年度	6月 中間研授業 2E 江川 5A 大澤, 6A 乾	(準備委員会) 11月 プレ大会授業 5E 大澤	8月 夏季ゼミナール 全体提案 6A 乾 分科会提案 6G 江川 荒川	6月 校外研授業 6A 乾 2月 協議会授業 6G 乾・荒川
平成 26 年度	6月 本発表授業 3E 乾, 5A 江川 6A 大澤	(実行委員会) 11月 本大会授業 3A 乾, 6E 大澤 6G 江川・荒川	8月 夏季ゼミナール 分科会提案 3A 乾 6E 大澤, 6G 江川	

5 研究実践

(1) 巧みな動きのコツを身に付ける「体づくり運動」

小学校学習指導要領解説には、高学年の内容の取扱いとして「体力を高める運動については体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導するものとする。」とされている。

附属小学校では、特に「巧みな動きを高めるための運動」を重視し、人や物の動きに対応してタイミングよく動くことを中心とした運動を取り上げ、対戦型の教材を開発する試みを行うこととした。

また、中学年の「多様な動きをつくる運動」においても、「用具を操作する運動」「基本的な動きを組み合わせる運動」を中心に、高学年への発展を考慮した教材化を図った。中学年では、体の基本的な動きを総合的に身に付けるために、動きのレパートリーを増やしたり、価値ある動きを取り上げて動きの質を高めたりすることが大切であると考えている。

そこで、スポンジ状の筒に塩ビ管を挿して柄を付けた棒状の教具「ふぞくぼう」を作り、竹刀・バット・ラケット等の棒状の用具操作や、タイミングのよい素早い身体操作等を高めるための「体づくり運動」を考えた。こうして身に付けた巧みな動きのコツは、中学校での「武道」や「球技」における技能や局面における攻防にも生かされていくものと考え。当然、「学び方」としての「体力の高め方」は、中学校の「体づくり運動」領域へと発展させていく。

#### ① 第4学年「ふぞくぼうを使って」（ボールを打ち弾ませて運ぶ動き）

ここでは、確かな動きやコツをつかむための「動き見つけ→動きの追求→動きの活用」という学習過程を仕組むようにした。追求の場面において、運動を行っている試技者にはできるだけ短い言葉で動きの感じをとらえることができる声かけを適宜行うようにし、試技が終わった後には自分の動きを振り返って、次への見通しをもてるような言葉かけを行った。観察者には、試技者の動きをしっかりと観察して助言ができるように声をかけるとともに、試技者の動きから自分の動きへの見通しをもつようにも声をかけながら、動きづくりへの手掛かりをもつことができるようにした。

第2時には、ソフトバレーボールを「ふぞくぼう」を使っていろいろな方法で運ぶようにした。授業の前半に、「ホッケーのように打つ」「2本の棒で挟む」「棒で押す」「ボールを弾ませてドリブルする」等のボールの運び方（運ぶ動き）を引き出すことができた。「中間研究会」では、その中から置いてあるボールを「ふぞくぼう」を使って弾ませる動きを、価値ある動きとして取り上げた。ボールを上手く弾ませるために、「スナップを使う」「バンって1回強く打つと弾む～そこからトントンってやる」「ト・ト・ト・トン・トン・トーンという感じで力を入れずにやる」「ボールの中心を打つ」「バンって打ったらサッと引く」など、“自分なりのコツ”をたくさん導き出すことができた。後半では、いろいろなボールをフロアに置き、それらをドリブルのように運んで行って段ボールに入れるゲームを行った。児童は、どんなボールでも「追求」で獲得したコツを生かすとよいことを感じて活動するとともに、ボールによって弾み方が違うことにも気付き、ボールに合ったバウンドのさせ方のコツを探り出そうとしていった。

このように、第4学年「多様な動きを創る運動」では「動き見つけ→動きの追求→動きの活用」と学習過程を工夫したことで、巧みさにつながる動きのコツを身に付けさせることができた。

#### ② 第5学年「引いて叩いて」（対戦型 棒引き&的落とし）

この單元においては、まず棒を押ししたり引いたりしてバランスを崩し合う運動を行い、相手のバランスを崩したり、自分のバランスを保ったりしながら、力強い動きやタイミングのよい動き身に付けるようにした。次に、棒を引いたり押ししたりしながら、棒を持たない方の手で相手の棒に付いている的を落とし合う運動を行い、相手の動きに応じて棒を引いてかわし、素早く踏み込んで的を素早く叩き落とす動きを身に付けていった。最後に、それらの動きを生かして「ふぞくぼう」での的を落とし合う運動を行い、相手の攻撃を「ふぞくぼう」で防いだり、スナップを利かせて打ち込んだり、棒を引きながら打ったりする動きを身に付けるようにした。

ここでは、「見通し→試技→振り返り」のサイクルを大切に、課題提示においては全員に見通しをもたせるために示範をし、そこからどんなことに気を付けたらよいかを考えさせた。全員に見通しをもたせたことで、意欲的に取り組むことができたと考えている。また、「試技をした結果どうだったのか？」を問いかけるようにしたことで、児童は自分の活動を振り返り、つかんだコツや運動した感じを明確にして、「次はこうやってみよう」と、次の試技への見通しをもつことができるようになっていった。見通しをもたせることができたことで、児童は自ら動きの追求を進めることができた。

## ③ 第6学年「叩いて落として」(対戦型 相手の体に付けた的落とし)

この單元では、最初にこの攻防(運動)に必要な力を考えさせ、巧みな動きを高めるための必然性をもたせるようにした。次に素早く反応して打ち込む動きを身に付けさせ、最後に「相手の動きに応じて、素早く正確に打ったり防いだりする動きを身に付けさせるために、どうしたらよいか」を考えさせた。試技者に対して「何を意識していたのか」「どんな感じでやったのか」など、運動した時の「感じ」を言語化するように、言葉がけを行った。そのことによって、児童は試技した結果を自分の体と対話しながら深く振り返るようになり、次の試技にも感覚を大切にしながら運動をすることができるようになった。中間研究会でも「感じ」を大切にした発表をさせ、その「感じ」をみんなで共有できるように全員で同じ動きを行うようにした。今までの自分の動きとの違いを感じ、「このコツを使ってやるとよくなった」と言う児童が何人もいた。

## (2) 発達の段階と実態を踏まえた「ボール運動～ネット型ゲーム」

小学校学習指導要領に示されたボール運動領域の呼称が、「バレーボール型」から「ネット型」へと変更されたことに伴い、指導すべき内容や方法を改めて見つめ直して「ネットを挟んで返し合うこと」(ラリーの応酬)や「ネットを隔てた攻防によって勝敗を競うこと」を、全ての子が楽しめるようにすることこそが大切であると考えた。中学校の「バレーボール」(球技)への発展を考慮しながら、「ネット型」における中学年のゲーム～高学年のボール運動の系統性や身に付けさせたい力を明らかにし、小学校での教材化や指導の在り方を工夫していこうと考えたのである。

そこで、4年生～5年生～6年生と成長する児童に対する3年間の継続的な実践研究として、3本返球(～3段攻撃)のリズムを大切に「ゲームづくり」を行い、1本目「受ける(→上げる→レシーブ)」～2本目「つなぐ(→整える→トス)」～3本目「返す(→攻める→スパイク)」のそれぞれの動きとそのコツ(含:状況判断)を身に付けることを目指すこととした。

4年生のときには、児童一人一人が基礎的・基本的な技能等を楽しみ身に付けられるような「ネット型ゲーム」を開発し、その実践の記録をまとめることとした。1本目や2本目に「キャッチ・スロー」を取り入れ、相手コートに返す場面のサーブと3本目のみを弾いて返す「ネット型ゲーム」を創り出した。5年生では、1本目に「キャッチ・スロー」を取り入れ、2本目を両手で弾いてつなぎ、3本目は両手や片手で返す「ボール運動(ネット型)」を確立し、その発展としての6年生では、1本目に「キャッチ・パス(自分で投げ上げて両手で弾く)」を取り入れ、2本目を両手で弾いて整え、3本目を片手で強く打ち返す(⇔ブロックも含めた守備)形の「ボール運動(ネット型)」を創り出すこととした。また、5、6年のいずれの場合も相手コートへの返球場面となるサーブと3本目を同様に指導し、動きのコツをつかむことができるようにした。

## ① 第4学年「ふぞくっ子バレーⅠ」

みんなでラリーの応酬を楽しむゲームにするために、単位時間のねらいを焦点化するとともに、「課題提示～練習の設定～ゲーム中の声かけ～評価」というように、一貫性のある指導となるように工夫した。相手から飛んできたボールの方向や位置に応じて、後ろの3人は「自分が捕るのか」「仲間に任せて3本目の準備をするのか」の判断をし、その動き出しを素早くするための「はい!」「オーライ!」「頼む!」などの声を出すことを徹底させた。2本目役のポジションでは、1本目のスローで上がってきたボールの方向や位置に応じて、3本目が打ちやすいネット際への山ボールを上げられるように、上げる方向を即座に判断して、そちらに体を向けて額の前でキャッチすることを、2本目役の要点として意識させた。また、ボールデッド時を利用し「体の向きを変えてから捕っていたか」「どちらに上げた方がよかったか」等を、チーム全体で振り返るようにした。そして、3本目を相手コートへ確実に返すために、2本目の投げ上げたボールに合わせて、タイミングよく走り込むことができるようにし、チーム内で「今!」「行け!」等の声をかけ合うことができるように言葉がけを行った。

右下のグラフは、単元の導入時と終了時に、児童一人一人に行った「技能検査」の結果である。「頭上パス」を落とさず続けた回数、「パスサーブ」の距離を得点化した数（5点満点）、コート内に投げ入れた5球中に落とさず「キャッチ」できた回数について、それぞれの平均値を出したものである。ゲーム中心の学習であったが、3種類ともにほぼ倍増したと言える。学習前（単元導入時）に技能検査が0点で、唯一「バレーが嫌い」と答えていた女兒A子が、「ふぞくっ子バレーⅠ」には笑顔で取り組み、学習後には「頭上パス」3回、「パスサーブ」2点、「キャッチ」1回と技能検査の結果を向上させ、「バレーは楽しい」と答えるようになったことも特筆すべきことである。

基礎技能を高める仕組として、1本目は相手からのボールの落下点に入る動き、2本目は味方の投げたボールを次に上げる方向に体を向けて額の前で両手でつかむ動き、3本目はボールを両手ではじくという動きを繰り返し行うようにしたことで、ゲームを通して児童一人一人の技能が高まったと言える。

ローテーションによって全ポジションを経験できるようにしたり、サービスは1本ずつ交互で行ったりしたことも、基礎技能を身に付けることに大きく影響していると感じている。

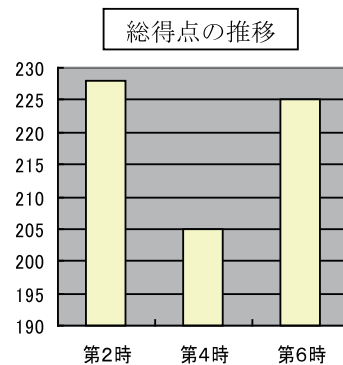
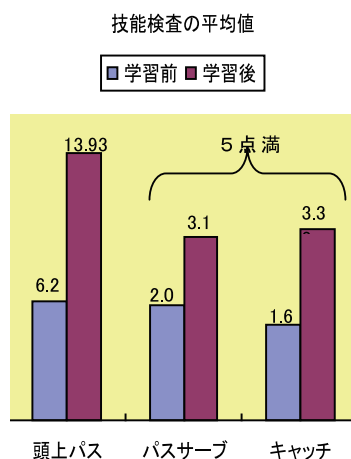
## ② 第5学年「ふぞくっ子バレーⅡ」

5年生では、ミスによる失点のゲームではなく、意図的な攻撃による得点で勝利するゲームの楽しさを味わうことができるように、指導の工夫を行った。チーム内の連係プレーによって三段攻撃が成り立つように、ボールを両手で弾いたり片手で打ったりする操作や、素早く適切な場所に移動する動きを身に付け、相手の捕りにくいようなボールを返し合うゲームを目指したのである。運動全体のリズムを「キャッチ・フワッ→ポーン→バーン」とし、得点までのイメージを全体で共有したうえで、「キャッチ・フワッ」でボールを落とさないように、ボールの正面や落下点に素早く移動してセッターに整えやすいボールを上げること、2本目の「ポーン」は3本目の打ちやすいボールをオーバーハンドパスで送ること、3本目「バーン」は相手の捕りにくいボールを打ち返すことを「技能」面の目標とした。

単元序盤の第2時には、サービスミスや返球ミス等の失点により点数が積まれて総得点の多いゲームになっていたが、1～3本目のそれぞれの動きが高まるとラリーが続くようになり、総得点の少ないゲームとなった。その後、ネット際やコート奥へとねらって返す攻撃的なゲームになって再び総得点の多いゲームへと変容し、勝利に向かってゲームを進める中で、「相手コートに落とすぞ！」⇔「落とすものか！」のやり取りを楽しむようになっていった。

「思考・判断」の面では、仲間とボールをつないだりネットを挟んだラリーの応酬をしたりするためのルールを工夫し、自分のチームのコートポジションごとの攻め方や、守り方をチームの特徴に応じた作戦として考えることを目標とした。2本目（トス）を「高めに上げる」（ポーン）か「小さく上げる」（ボン）かについて、チームの特徴（各フォーメーションの個人の運動能力や体格等）から考え、「片手ではアウトになりやすいから3本目は両手で返そう」「ポンの時は近くで準備をしないと間に合わないから気をつけよう」など、自分たちの姿と作戦とを結び付ける姿も見られるようになった。

また、ネット型のゲームは、プレー中にかけて瞬間の声に加えて得失点後のボールデッド時にも仲間と声をかけ合うことができ、その場を利用してつながりを深めたりプレーを振り返ったりすることができるゲームでもあり、仲間との相互援助活動は「勝ちたい、うまくなりたい」という児



童にとっての必然となった。

## 6 第53回 全国学校体育研究大会 岐阜大会と成果

### (1) 全体会（シンポジウム）

小体研テーマ「仲間とともに運動の楽しさや喜びを味わう体育授業の創造」を受けた実践として、御宿主幹教諭が附属小学校の「運動の見方・考え方」（図表1）で「体づくり運動」をとらえることを「思考・判断」の目標とすることを提案した。

このことは、平成26年11月7日（金）の岐阜新聞朝刊で次のように報道された。

<児童自ら考える授業を！～全国学校体育研究大会，岐阜で開幕～>

体育の指導者が子供の体力向上の取組や授業の実践を交流し合う「全国学校体育研究大会岐阜大会」が6日から日間の日程で始まった。初日は「豊かなスポーツライフの実現」をテーマにシンポジウムが、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で行われ、幼稚園や小中高校、大学の教員が意見交換した。

<教員ら1800人，意見交換>

研究大会は文部科学省などが開き、53回目。県内での開催は48年ぶり。全国の幼稚園や学校の体育教員ら約1800人が参加した。

シンポでは、岐阜大附属小学校の御宿浩輝主幹教諭が、高学年の長縄の授業の実践を紹介。リズムを取りやすいよう一定のテンポの曲を流したり、仲間同士で「イチニ、イチニ」と声かけをさせたりした工夫を紹介した。また、うまく跳べたときの足の動き、体の向きなどを児童に語らせて意識させているとし、「成功の喜びを味わうと同時に、自ら考える楽しさを育む必要がある」と強調した。

### (2) 第2分科会（公開授業～研究会）

#### ① 公開Ⅰ 第3学年 体づくり運動（多様な動きをつくる運動）「ふぞくぼうを使って」

学習課題「投げ上げた軽量ボールを、ふぞくぼうで打って、遠くまでまっすぐ飛ばそう！」に向かって、投げ上げて打つタイミングや一連の動きのリズム、体の動かし方を考えながら動きを追求し、言葉に表すことで自分なりのコツを探ることを目指す授業を展開した。3年2組の児童は、用具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、仲間と教え合ったり励まし合ったりしながら、一生懸命運動に取り組むことができた。また、中間や終末の「全体会」では、自分のできた動きやつかんだコツについて、順序立てた話し方で説明することができる児童が何人も見られた。

#### ② 公開Ⅱ 第6学年 ボール運動（ネット型）「ふぞくっ子バレーⅢ」

前時の振り返り（感想や反省）を聞いたり、ゲーム中の様子を映像で観たりし、「仲間の2本目のトスに応じて声をかけ合いながら、相手が捕りにくい3本目を返すゲームをしよう！」を学習課題として提示した。6年3組の児童はチームの特徴を考えて攻め方や守り方の作戦を立て、仲間と喜び合ったり励まし合ったりしながら、ゲームを進めることができていた。ゲーム中には、判断につながる「ブロックないよ！」「前に！」の声が聞かれ、課題を意識した動きが随所に見られた。ボールデッド（得失点後）やタイムアウトのとき、ゲーム間には2本目のボールの高さや3本目の返し方等を振り返ったり、攻め方や守り方の作戦を立てたりすることができていた。

#### ③ 研究会

附属小学校（第2分科会）には、公開授業は200人以上が参観され、研究会にも約100人の出席があった。参会者からは種々な観点から意見や感想が寄せられ、「系統的な指導」「教材・教具の開発」「動きのコツを身に付ける指導と評価」の成果が、子供の姿で伝えられたと実感している。

#### ④ 講評

公開授業及び研究会の議論の観点を踏まえ、附属学校の研究についての補足的な説明も含んでまとめられた。内容は以下に要約する。

- ・ 「運動の見方・考え方」は、学習内容（運動）の基本的理解・解釈の仕方であり、「運動の全体」

は運動の時間経過を大切にした印象的理解,「部分の動き」は中核的な運動の焦点的理解,「支える要素」は運動者自身の身体的理解とも言い換えることができる。

- ・ 教育は,「教える⇔教えられる」関係でなく,「教える⇔学ぶ」関係であり,学習者である子供が主体的に学び,自分で理解・納得しなければ学習は身に付かない。従って,教師は「子供がどういう理解をしているか?」を理解する必要がある。運動ができない子は客観的な理解をしても動くことができず,客観的な運動を自分の体で主体的に理解しなければならないのである。
- ・ その子が動ける運動は,その運動を身体が理解していると言い換えることもできるであろう。この身体的理解が,運動の習得につながるのである。そのためには,子供が自分で自分自身を認識する言語化の能力をもったり,体験を経験として分節・対象化したりすることが必要になってくる。運動現象そのものをオノマトペ(擬態語)で表現することは,“コツ”をつかむ上で有効だと言える。
- ・ 指導者である教師は,子供に「確かな動き」を身に付けさせるために,学習内容・教材・教具・物的環境(場の設定)・仲間や雰囲気といった「運動が発現できる学習環境」を整えることが必要になる。また,子供が「確かな動き」を身に付けることができるように,観点を提供したり,動きの変容に気付かせたり,無意識であったことを意識化するように問いかけたりするような直接的指導も重要である。
- ・ これらのことから,本で行った附属小学校の二つの授業は,「確かな動きと自分なりのコツをつかむ児童の育成」を具現したものであったと考える。

## 7 主な成果と今後の課題

### (1) 研究会後の参加者の感想

研究会の後,参加者にアンケート形式で感想を書いてもらった意見を以下に示す。

- ・ 「運動の本質の基づく教材分析と系統性を重視した指導計画」の重要性について,授業実践を通して再認識することができた。児童の「学びの姿」(楽しく授業で力をつける様子)がその成果であると確認できた。
- ・ 確かな教材分析による単元構成により,系統的な指導がなされていて大変参考になった。「コツ」にこだわり,運動について考えて実践されていることがよくわかった。
- ・ 子供達の運動への関心・意欲態度,思考・判断,技能のどれもが高く,大変貴重な“提案型”の授業と研究発表であった。
- ・ 系統性のある指導計画を創り上げられたことに感銘を受け,大いに刺激を受けた。これまでの積み重ねが,本当に素晴らしいと感じた。そのことが,あのような子供達(運動に熱中する姿)につながっていることが納得できた。
- ・ 附属小学校からは,体育の授業だけでなく全ての教育活動における,積み重ねや校風のようなものをひしひしと感じた。先生方の姿からも使命感のようなものが感じられ,大変勉強になった。
- ・ 日常の指導が徹底されている素晴らしい実践を拝見し,参加した意義があった。子供達の授業に取り組む姿が素晴らしく,先生方の指導の賜だと感じる。岐阜県のモデル校としての役割をきちんと果たしてみえる教職員の皆様に敬意を表したい。
- ・ 学校として子供の育ちの連続性をとらえ,子ども自身が「できるようになった」と実感できる仕組みを研究され,授業者が常に考えながら工夫されていることがよくわかった。過去と未来を考えながら“今”を創り出していることを,心に留めておきたい。

### (2) 全国大会への取組の成果

今回の研究実践の成果として以下のようにまとめることができる。

- ① 発達の段階を踏まえた系統的な教材を開発するとともに,各学年の綿密な単元指導計画を作成



したことで、児童一人一人が運動の楽しさを味わうことができた。

- ② 運動全体のイメージをとらえて、中核となるポイントをつかむという「運動の見方・考え方」を視点としてもたせ、「見通し」→「試技」→「振り返り」のサイクルを伝え、活動の仕方を明確にしていくことで、児童がコツを探して意欲的に活動するようになった。
- ③ 動きの「感じ」を大切に言葉かけを行うことで、児童は自分自身の体と対話しながら運動に取り組み、自分なりのコツをつかみながら活動することができた。
- ④ ネット型ゲーム～ボール運動に「キャッチ・スロー」を取り入れることで、ラリーの応酬や意図的な攻撃等の楽しさを味わうことができ、その有効性を実感することができた。
- ⑤ 児童一人一人の運動量を確保しながら、対戦型の活動やゲームの中で基礎的・基本的な技能を楽しく身に付ける仕組みを作ることができた。

### (3) 今後の実践に向けた課題

今回の研究実践は、「体づくり運動」と「ゲーム～ボール運動」の一部を特化したものとなった。今回の研究内容である「運動の本質に基づく教材分析と系統性を重視した指導計画の作成」「全ての児童に運動ができる楽しさを味わわせる教材・教具の開発」「動きのコツを身に付けさせる指導と評価」について他種目や他領域へと広げ、研究仮説を検証していく必要を強く感じている。

## 8 おわりに

附属小学校では、これまで長年にわたって「運動の見方・考え方」を追求の視点とした実践を行ってきた。リズム言葉を用いて運動をイメージしたり、動いて感じたことを擬態語で表現したりするなどし、動きを追求するようになってきた。また、ボールゲームでは、「何を」「どこへ」「いつ」を判断の観点とした「状況に応じた動き」の追求に取り組んできたことを提言した。





この「運動の見方・考え方」は、他の小学校会場の主張にも反映されており、附属小学校が果たす役割はとて大きなものになってきている。

### 【参考文献】

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』：平成20年9月発行
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』：平成20年9月発行
- 文部科学省『小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック』
- 文部科学省『多様な動きをつくる運動（遊び）パンフレット』
- 文部科学省『学校体育実技指導資料 第8集 ゲーム及びボール運動』
- 岐阜大学教育学部附属小・中学校『研究報告 VOL.2』（小学校研究報告 第23号）：平成14年
- 岐阜大学教育学部附属小学校『研究報告 第24号』：平成17年
- 岐阜大学教育学部附属小学校『研究報告 第25号』：平成20年
- 岐阜大学教育学部附属小学校『研究報告 第26号』：平成23年
- 岐阜大学教育学部附属小学校『研究報告 第27号』：平成26年

体づくり運動「ふぞくぼう (スポンジ状の筒に塩ビ管を挿して柄を付けた棒状の用具) を操作する運動」領域系統図

\*生涯スポーツや中学校保健体育の剣道や球技につながることを意図した「体づくり運動」の一環として、身のこなしや竹刀・バット・ラケット等の棒状の用具を操作する動きのコツを身に付ける運動を系統的に配列

学年	中心となる運動	運動の全体 (リズム例)	部分の動き  自分なりのコツの例	動きを支える要素
6年	体力を高める運動「ふぞくぼうを使って Ver. 4 ～攻めて・守って～」(巧みな動きを高める運動)			
	<p>○両手首と両膝に付けた的をふぞくぼうで打ち落とし合う運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手を誘いだす動き</li> <li>相手の隙を見つけて的を打つ動き</li> <li>相手の攻撃をふぞくぼうで防ぐ動き</li> <li>相手の的を繰り返し攻め連続で的を打つ動き</li> <li>相手の攻撃をかかわす動き</li> <li>素早く的を打ち落とす動き</li> </ul>	<p><b>ポッ・ヒョイ…<u>ポーン</u></b> (フェイントを掛け…打つ)</p> <p><b>ヒョイ・パン・ヒョイ・パン…<u>ポーン</u></b> (よけたり受けたりして、打つ)</p> <p><b>パン・パン…<u>ポーン</u></b> (受けて守って、打つ)</p> <p><b>ヒョイ・ヒョイ…<u>ポーン</u></b> (よけて、よけて、…打つ)</p> <p><b>スットツ…(駆け引き)<u>ポーン</u></b> (素早く打つ)</p> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手が攻めに来るように自分からその<u>きっかけを生み出す</u>動き</li> <li>相手の動きに応じて<u>隙を狙う</u>動き</li> <li><u>タイミング良くかわす</u>動き</li> <li><u>素早く踏み込む</u>動き</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふぞくぼうの持ち方・振り方や振り出す<u>タイミング</u></li> <li>次の一手や先を読む<u>考え</u></li> <li>動きやすい足の動かし方や体の<u>構え</u></li> </ul> <p>しっかり守りながら チャンスを狙うことが 自分の掴んだコツだ!</p>
5年	体力を高める運動「ふぞくぼうを使って Ver. 3 ～引いて・叩いて～」(巧みな動き、力強い動きを高める運動)			
	<p>○引き合う棒に付けた的をふぞくぼうで打ち落とし合う運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>棒を引き合って相手のバランスを崩す動き</li> <li>棒を引き合う中で自分の的を落とさせないように<u>タイミングよく棒を動かす</u>動き</li> <li>棒を引き合って相手付近の的をふぞくぼうで落とす動き</li> <li>棒を引き合う中で自分の的を落とさせないようにふぞくぼうで<u>防ぐ</u>動き</li> </ul>	<p><b>スットツ…(駆け引き)</b> <b>パン～グイッ～<u>ポーン</u></b> (受けて守って、引いて、打つ)</p> <p><b>グッ～グイッ～<u>ポーン</u></b> (こらえて、引いて、打つ)</p> <p><b>グイッ～<u>ポーン</u></b> (引いて、打つ)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手が攻めに来た瞬間に<u>タイミング良く棒を引き寄せ</u>的を落とす動き</li> <li><u>ふぞくぼうで防ぐ</u>動き</li> <li>自分の方に棒を引き寄せて<u>素早く的を落とす</u>動き</li> <li>自分の方に寄せたり保持したりするための<u>力強く棒を引く</u>動き</li> </ul> <p>このタイミングで素早く動くことが 自分の掴んだコツだ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふぞくぼうの持ち方・振り方や振り出す<u>タイミング</u></li> <li>相手のバランスを崩すための<u>緊張から弛緩へのタイミング</u></li> <li>棒を引くための持ち方・<u>構え</u></li> </ul>
4年	多様な動きをつくる運動「ふぞくぼうを使って Ver.2～ボールを打つ運動～」(用具操作と体の移動の運動の組み合わせ)			
	<p>○床に置いたボールを、ふぞくぼうで打ちつけて弾ませる運動</p> <p>○弾んだボールをふぞくぼうで打ちつけ続けて運ぶ運動</p> 	<p><b>～トント…トン</b> (打ちつけて弾ませ)</p> <p><b>トントントン…</b> (弾ませながら運ぶ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>置いてあるボールを、ふぞくぼうで<u>うまく打ちつけて弾ませる</u>動き</li> <li>ふぞくぼうで<u>うまく打ちつけ続けながら歩く</u>動き</li> </ul> <p>この振り方やタイミング、当て方や位置、歩の進め方が自分の掴んだコツだ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールをふぞくぼうに<u>当てる位置</u></li> <li>弾ませて歩く動きとふぞくぼうの<u>振り方・当て方やリズム</u></li> </ul>
3年	多様な動きをつくる運動「ふぞくぼうを使って Ver. 1 ～ボールを打つ運動～」(用具を操作する運動)			
	<p>○固定したボールを、ふぞくぼうで打つ運動</p> <p>○投げ上げたボールを、ふぞくぼうで打つ運動</p> 	<p><b>イチ、ニ</b>(構えて引いて) <b><u>サーン</u></b>(打つ)</p> <p><b>フツ</b>(投げ上げて) <b><u>パン</u></b>(打つ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>置いてあるボールを、ふぞくぼうで<u>うまく打つ</u>動き</li> <li>高く固定したボールを、ふぞくぼうで<u>うまく打つ</u>動き</li> <li>投げ上げたボールを、ふぞくぼうで<u>ねらった所へタイミングよく打つ</u>動き</li> </ul> <p>この振り方やタイミング、この当て方や位置が 自分の掴んだコツだ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふぞくぼうの持ち方・振り方や振り出す<u>タイミング</u></li> <li>ボールをふぞくぼうに<u>当てる位置</u></li> <li>弾ませて歩く動きとふぞくぼうの<u>振り方・当て方やリズム</u></li> </ul>

ゲーム～ボール運動(ネット型)領域系統図 ～攻守分離型における集団種目の「運動の見方・考え方」を育む系統～

学年	ゲームの概要 場の設定・ルール	返球までの 全体のリズム	状況に応じた判断と動き	動きを支える 個人技能
6年	<p><b>ふぞくっ子バレーの概要 (3学年共通)</b></p> <p>運動量の確保 (プレー機会の保障) 可能なローテーション</p> 	ふぞくっ子バレーⅢ (オバ・ハントパスをつないで三段攻撃をするゲーム)		
		<p>①キャッチ～オバ・ハントパス (捕って投げ上げ両手で弾く)</p> <p>②オバ・ハントパス (両手で弾く)</p> <p>③オバ・ハントパス or スパイク (両手 or 片手で打つ)</p> <p><b>キャッチ・フワッ・ホーン～ホーン～バーン(チョン)</b></p>	<p>①自分が捕るか仲間に任せるかを判断し、任せたときには素早く返球の準備をする。「(何を)」</p> <p>②普通に上げるか小さく上げるかの判断をする。「(何を)」</p> <p>③確実に返すか、ねらって返すか、強く返すかの判断をする。「(何を)」「どこへ)」</p>	<p>額の前でボールを両手で弾く動き</p> <p>トスにタイミングを合わせて走りこむ返球の動き</p> <p>片手で強く打って返球する動き</p>
5年	<p>&lt;4年のⅠとの違い&gt; ・ネットの高さ:175 cm</p> <p>・サーブ:コート後方から両手 or 片手による打ち入れ(交互)・1本目(捕る・投げる)⇒2本目(弾く)⇒3本目(両手 or 片手で打つ)</p> 	ふぞくっ子バレーⅡ (トスを弾いて上げて3本返球をするゲーム)		
		<p>①キャッチ・スロー (捕って投げて)</p> <p>②オバ・ハントパス (両手で弾く)</p> <p>③オバ・ハントパス or スパイク (両手 or 片手で打つ)</p> <p><b>キャッチ・フワッ～ホーン～バーン(チョン)</b></p>	<p>①自分が捕るか仲間に任せるかを判断し、任せたときには素早く返球の準備をする。「(何を)」</p> <p>②レフト側に上げるかライト側に上げるか、普通に上げるか小さく上げるかの判断をする。「(どこへ)」</p> <p>③確実に返すか、ねらって返すか、強く返すかの判断をする。「(何を)」「どこへ)」</p>	<p>上げる方を向いて額の前でボールを両手で弾く動き</p> <p>トスにタイミングを合わせて走りこむ返球の動き</p>
4年	<p>3本返球(～3段攻撃)のリズムを大切にしたい「ゲームづくり」を行い、1本目「受ける(→上げる→レシーブ)」～2本目「つなぐ(→整える→トス)」～3本目「返す(→攻める→スパイク)」のそれぞれの動きとそのコツ(含:状況判断)を身に付けるネット型ゲーム</p> <p>・ネットの高さ:170 cm ・ボール:160gゴム製 ・バドミントンコート ・ショートサービスライン付近から両手で打ち入れサーブ(交互) ・ローテーションありの4人制3本返し7分マッチ ・1本目(捕る・投げる)⇒2本目(捕る・投げる)⇒3本目(両手で打つ) ・2本目を投げるときは、ボールを捕った体の向きのまま投げる。(2本目は額前で)</p>	ふぞくっ子バレーⅠ (3本目を打って返す3本返球のゲーム)		
		<p>①キャッチ・スロー (捕って投げて)</p> <p>②キャッチ・スロー (額の前で捕って投げて)</p> <p>③オバ・ハントパス (両手で打つ)</p> <p><b>キャッチ・フワッ～キャッチ・フワッ～バーン(チョン)</b></p>	<p>①自分が捕るか仲間に任せるかを判断し、任せたときは返球の準備をする。「(何を)」</p> <p>②2本目をレフト側に上げるかライト側に上げるかの判断をする。「(どこへ)」</p> <p>③確実に返すか、ねらって返すか、強く返すかの判断をする。「(何を)」</p>	<p>上げる方を向いて額の前で捕球する動き</p> <p>両手で額の前や頭の上でボールを打つ動き</p> <p>返しやすい場所に素早く動く返球の動き</p>
3年	ミニふぞくっ子バレー (打って返し合うゲーム)			
	<p>・ネットの高さ:165 cm ・ボール:160gゴム製 ・コート:縦4m×横12m ・サーブ:どこからでもよいので両手で打ち入れを交互に行う ・2人制2本返しの6分マッチ ・前後半でメンバーチェンジ ・1本目(捕る・両手で投げ上げる)～2本目(頭より上で両手で打つ)</p> 	<p>①キャッチ・スロー (捕って投げて)</p> <p>②オバ・ハントパス (両手で打つ)</p> <p><b>キャッチ・フワッ～バーン キャッチ・フワッ～チョン</b></p>	<p>受けなかったとき</p> <p>・1本目を仲間に任せるときは、返しやすい場所に動いて2本目を打つ。「(どこへ)」</p> <p>返すとき</p> <p>・とにかく入れるか強く返すかを判断する。「(何を)」</p> <p>・相手コートへのどの辺りに打ち返すかを判断する。「(どこへ)」</p>	<p>膝を使って柔らかいボールを投げ上げる動き</p> <p>両手で額の前や頭の上でボールを打つ動き</p> <p>構えて返しやすい場所に動く返球の動き</p>
2年	ふぞくっ子ドロップボール (投げて落とし合うゲーム)			
	<p>・ネットの高さ:160 cm ・ボール:160gゴム製 ・コート:縦4m×横12m ・サーブ:コートの中央辺りから両手で投げ入れを交互に行う ・2人制1本返しの6分マッチ ・前後半でメンバーチェンジ ・1本目(捕る～両手で投げる)</p>	<p>キャッチ～スロー (捕る)～(投げる)</p> <p><b>キャッチ～ヒョイ キャッチ～ボーイ</b></p>	<p>受けるとき「(何を)」の判断</p> <p>・飛んできたボールの位置によって自分が捕るか、仲間に任せるかを判断する。</p> <p>返すとき「(どこへ)」の判断</p> <p>・相手コートへのどの辺りに投げ返すかを判断する。</p>	<p>ボールの落下点に素早く入る捕球の動き</p> <p>両手でボールを狙った辺りに投球する動き</p>

